

いいところ見つけ 大崎保育所の取組み〜1月の保育から

「いいところ見つけ」というテーマで集会を持ちました。子どもたち自身が自分の成長に気づいて、自信をもって生活できるようにすることをねらいとして、赤ちゃんの頃の写真と今の写真を見比べ、写真を見ての感想や、自分がどんなことができるようになったか（どんなことを頑張っているか）を発表する取組みです。



「ぼくは、カルタをするのが大好きです」

どの子ども自分の写真を見ると、とても嬉しそうでした。「顔が違ふと思った」「背が伸びた」という子どもたちの声。保育士が「ほかにどんなことを思った」と問いかけると、「赤ちゃんの時はごはんを一人で食べられなかったけど、今は自分で食べられる」と答えが返ってきます。「そつだね。みんな大きくなって色々なことが出来るようになったね。みんなには、いいところがたくさんあります。それから、頑張っていることや出来るようになったことをお話ししてください」と言葉をなげかけると、「お布団たたみや、洗濯物たたみを頑張っています」「生活発表会するとき、ピアノの練習を一生懸命しました」等々、自分たちの成長を、日常生活を

通して感じられる答えが返ってきました。

取組みを通して思うこと

子どもたちは、たくさん得意なこと・出来るようになったこと・頑張っていることがあります。でも、なかなかそのことを自分で意識できないでいます。「いいところ見つけ」のような取組みを通して、保育士や友達と一緒に自分の成長を振り返ることで、「自分はこんなにたくさんできるようになった」「今はまだできないけど、一生懸命頑張っている」と意識できるようになってくると思います。



「赤ちゃんの写真は、ねているけど今はこんなに大きくなったね！」

しかし、なにより大切なのは保育士のかかわりです。日頃の保育の中で、注意や叱ることが先行してしまいがちですが、それ以上に認めたり励ましたりほめたりすることを忘れてはいけなないと、この取組みを通して感じています。

《保護者の声》

「自分が成長したことがよくわかったかな？周りの大人が意識して声かけをしていかないと、できるようになって当たり前、できないと怒られる...というふうになってしまいますね。それでは自分に自信を持つていられないことに挑戦してみることもなれてできなくなってしまう。小学校までにできるようなってほしいという目標は持つておかないといけないでしょうが、目標をクリアするためにも、自信を持つことが大事ですね。」

大崎保育所が大切にしていること
大崎保育所は、設立26年になります。「差別に負けない差別を許さない子どもたちを育てる」という、被差別部落出身の親たちの設立当初から受け継がれてきたこの思いは、いじめや格差社会など人権問題が存在する現在、生活や子育てに悩む親たちの思いとも重なります。だからこそ、「子どもたちには自信を持って、差別に負けず進んで行ってほしい」という願いから、この取組みを行っているのです。
「一人一人を大切に」「人権を大切に子どもたちを育てる」保育を目指し、今後も、子どもたちの姿や親の思いに学びながら、保育内容を創造してまいります。